

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 水口 剛	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 学会賞受賞</p> <p>環境経済・政策学会より『責任ある投資－資金の流れで未来を変える』(岩波書店)に対して論壇賞を受賞した。</p> <p>(2) ヨーロッパ及びアメリカの責任投資調査</p> <p>責任投資とは、年金基金等の機関投資家が投資行動に際して環境・社会の側面も考慮することで、資本市場の働きを社会の持続可能性と調和させていく試みである。それはまた、非財務情報の開示と表裏一体の関係にある。</p> <p>今年度は、この分野で実務的にも先端をいく欧米の事情を調査することで、今後の研究の基礎資料を得ることができた。特に、2014年6月にロンドンで開催されたワークショップ「RI Europe」に参加して情報収集したほか、2015年1月には環境省委託調査としてヨーロッパとアメリカでのヒアリングを実施した。ヨーロッパでは、イギリスの先進的な調査機関である Trucost 社や CDP、フランスの公務員付加年金 (ERAFP) や欧州最大の運用機関である Amundi などを訪問してヒアリングを行った。アメリカでは CalPERS (カリフォルニア州職員退職年金基金)、CalSTRS (カリフォルニア州教職員退職年金基金)、ニューヨーク市年金基金など、この分野を牽引する機関投資家にヒアリングすることができた。</p> <p>こういった情報は、日本の関係者に向けた発信が重要であるので、早稲田大学大学院(4月)、社会的責任投資フォーラム連続講座(4月)、実践コーポレートガバナンス研究会(9月)、CDP ジャパンクラブ(3月)などの場を使って発表した。</p> <p>(3) 教育面での成果</p> <p>演習 I において、CSR (企業の社会的責任) の理解を深めるため、実際に本学の CSR 報告書を作成する実習を行った。作成の過程を通して大学の社会的責任とは何かについての議論を深めたほか、さまざまな教職員へのインタビュー等からも学生は多くの経験を得た。また演習 I において 8 月にタイ・バンコクでの現地調査を行い、サンデン、イオンなどを訪問した。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>経済・経営研究科長として 2 年目を迎え、前年度から継続審議となっていた社会人の長期履修制度の制度化を実現した。また、基本戦略検討委員会のメンバーとして全体の議論に参加するとともに、大学院に関しては社会人に魅力のあるカリキュラムの構築という方向で基本戦略の骨格に反映させた。</p>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>平成 27 年 4 月より、1 年間、国外研修の機会を得て、イギリスのロンドンに滞在する予定である。責任投資の分野でイギリスでは最も歴史のある EIRIS を受入機関として、同国での責任投資の実践状況を調査することとしている。また、日本でも注目を集める統合報告について、イギリスでは会社法を改正して戦略報告書 (Strategic report) として制度化した。この点でも同国の状況は日本にとって示唆が大きいと思われるので、戦略報告書の有用性についても、十分注意して情報を得てくることとしたい。</p>	